

こんにちは 脇本です！

Something

脇本商事サムシング・ニュース

News

No.288

2025年6月号

バックナンバーは会社案内HPに掲載されています

■会社案内: <https://www.kk-wakimoto.com> ■ラベルくん: <https://www.label-kun.com>

脇本商事の繊維のネタ帳 Vol.177

知っておきたい繊維の知識～アパレル編⑨

こんにちは！
『知っておきたい繊維の知識』（ダイセン株）より『アパレル編』をご紹介しますのでよろしく願います～！

【立体化技法】

縫製工程では、表地の可塑性を利用して、くせ取り、いせ込み、追い込み（伸ばし）、ダーツ処理などのテクニックによって平面状の布を立体形状の人体に適合させるようにしています。

また、装飾効果も発揮する立体化技法としてギャザー、タック、シャーリングなどがあります。

それでは、それぞれ説明していきます～

「くせ取り」縫い目なしで地の目をアイロンなどで変化させて（ひねる）立体化させる

「いせ込み」異なった長さの布地の長い方を平均的に押し込みつつ同一寸法に縫い合わせ、シワが生じないようにスチームアイロンでセットして自然な丸みを出す

今回は「追い込み」「ダーツ」「ギャザー」「タック」について説明を続けます～

Vol.177



ポピンが
お届けします♪

facebook情報宅急便！

www.facebook.com/kkwakimoto

こんにちは！ポピンです～♪

今回は展示会出展のご案内になります～♪

2025年7月23日（水曜日）に行われる北洋銀行様の「ものづくりサステナフェア」に出展します！！

「布製品をつくってほしい」「新商品を開発したい」など製品化までの商品課題に合わせた提案、資材の調達などニーズをカタチにするといった内容です。キャッチフレーズは

“布をカタチに！カタチに布を！”

糸でつながるカンパニー”と題し、縫製技術のネットワークを活かし「あったらいいな」のものづくりを実現する提案を行います。

展示会では製品の見本展示や布製品をつくるための縫製副資材や生地などの紹介、自社縫製工場でのOEM生産をご案内しようと思ひます。ぜひ足をお運びください～♪



『北洋銀行ものづくりサステナフェア 2025』

2025年7月23日（水曜日）

10:00～17:00

アクセスサッポロ

（札幌市白石区流通センター4丁目）



NET PICKUP!

博報堂生活総合研究所による生活者の意識調査
定点調査で回答の変化を観測しています

生活定点より <https://seikatsusoken.jp/shohiyoho/2025-06/>

2025年6月の消費意欲指数は？

最新(2025年5月上旬)調査結果

20～69歳の男女1,500名を
対象に「来月の消費意欲」を点数化

43.8%

前月(5月)より0.2↓ 前年(2024年)より0.5↑

大型連休の反動や物価高の影響で、消費意欲指数は低水準で推移
消費意向は新ゲーム機の発売でエンタメ関連を中心に前月・前年比増

ラベルくん

label-kun.com

～株式会社脇本商事のホームページからのお知らせ～

ラベルくん.comを運営しています脇本商事では生地をはじめ、副資材から梱包材など繊維製品の専門材料をピックアップしてご紹介しています。ぜひご覧ください～♪

<https://kk-wakimoto.com>



春には新学期も始まり、あたらしい環境のなか運動会の季節になりますね。日本の運動会の歴史は、1872年（明治5年）に発足した近代学校制度の発達につれて、まず学校の運動会として普及したそうです。はじめて開催された運動会は1874年（明治7年）3月21日に東京・築地の海軍兵学校で行われた「競闘遊戯会（きそういうぎ）といわれています。当時、座学の合間に生徒たちのストレス発散や運動の機会を増やすことを目的に、18種目ほどが開催されたと考えられています。1878年（明治11年）になると、札幌農学校（現在の北海道大学）で「力芸会」が開催され、それまで軍事色の濃い種目を減らし教育の一環となるようなプログラムになったそうです。一人三脚、短距離走、幅跳び、高跳び、障害物競争などがそれです。なかでも「食菓競争」はパン食い競争のルーツとなった競技で現在の運動会は「力芸会」のときにはほぼ完成されていたといえます。「運動会」と名づけた大会を初めて開催したのは1882年（明治15年）の東京大学で行われた運動会といわれています。運動会の歴史も150年を超えるんですね。昨今では、新型コロナウィルスをきつかけにその運動会の規模も縮小し、こじんまりとした開催になってしまいましたが時代の流れに合わせた内容に変化してきているのはわかりますが「人と人を繋ぐイベント」としてコミュニケーション活性的な場だと思うのですが、それが省略化され、縮小されていくのは寂しい気がしてしまいます。

脇本康裕の気になるコラム

運動会の歴史

春には新学期も始まり、あたらしい環境のなか運動会の季節になりますね。日本の運動会の歴史は、1872年（明治5年）に発足した近代学校制度の発達につれて、まず学校の運動会として普及したそうです。はじめて開催された運動会は1874年（明治7年）3月21日に東京・築地の海軍兵学校で行われた「競闘遊戯会（きそういうぎ）といわれています。当時、座学の合間に生徒たちのストレス発散や運動の機会を増やすことを目的に、18種目ほどが開催されたと考えられています。1878年（明治11年）になると、札幌農学校（現在の北海道大学）で「力芸会」が開催され、それまで軍事色の濃い種目を減らし教育の一環となるようなプログラムになったそうです。一人三脚、短距離走、幅跳び、高跳び、障害物競争などがそれです。なかでも「食菓競争」はパン食い競争のルーツとなった競技で現在の運動会は「力芸会」のときにはほぼ完成されていたといえます。「運動会」と名づけた大会を初めて開催したのは1882年（明治15年）の東京大学で行われた運動会といわれています。運動会の歴史も150年を超えるんですね。昨今では、新型コロナウィルスをきつかけにその運動会の規模も縮小し、こじんまりとした開催になってしまいましたが時代の流れに合わせた内容に変化してきているのはわかりますが「人と人を繋ぐイベント」としてコミュニケーション活性的な場だと思うのですが、それが省略化され、縮小されていくのは寂しい気がしてしまいます。

Gadget Star

ガジェットの星

便利な商品をインターネットから
探してご紹介するコーナーです♪

ガジェット通信より <https://getnews.jp/archives/3621553>



アメリカの野球ファンを驚かせた キャノンのポリュメトリックビデオシステム

今年3月、メジャーリーグベースボール（MLB）のシカゴ・カブスとロサンゼルス・ドジャースが来日して、東京シリーズが開催されました。

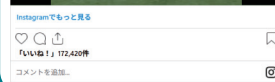
東京シリーズ開催中にアメリカの野球ファンの間で話題となったのが、2023年に東京ドームが導入したポリュメトリックビデオシステムによるリプレイ映像です。

キャノン株式会社が開発したポリュメトリックビデオシステムは、バッティング、走塁、守備連携など、プレイ中の様々なシーンのリプレイ映像を、360度のカメラワークで制作することを可能にしています。

キャノンの担当者によれば「東京ドームにおけるポリュメトリックビデオシステムの現状ですが、昨シーズンは101台のキャノン製カメラが設置されていましたが、今シーズンからは125台に増やして対応をしています」ということです。

MLBの公式SNSで紹介されるなどアメリカでの注目度が高まったことについては「今回、アメリカの野球ファンの皆さまにも知っていただくきっかけとなりとてもうれしく思っております。野球観戦の新たな楽しみ方を野球ファンに届けられるよう、引き続き取り組んでまいります」と話してくれました。

現在ポリュメトリックビデオシステムが導入されているのは東京ドームだけということですが、今後日本人選手が所属しているMLBチームのホーム球場に導入されるようになるのかもしれませんが。



※文章:ガジェット通信より抜粋



株式会社 脇本商事

〒060-0016

札幌市中央区北16条西21丁目2-1

TEL:011-614-1212 FAX:011-614-1222

E-mail:info@kk-wakimoto.com

<https://www.kk-wakimoto.com>

